

## 令和3年度図書館部会の協議テーマ

## 『総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援について～ジュニア司書の育成』

## 子どもの読書活動についての現状と課題

## 【学校教育】

- 情報通信技術（ICT）を利用する時間が増加し、あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になる一方で、子どもたちの活字離れが年々深刻化していると考えられています。子どもたちの視覚的な情報と言葉の結び付きが輝北になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているとの指摘もあります。新学習指導要領等において、読書は、精査した情報を基に自分の考えを形成し表現するなどの「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むことに資するという点からも、その重要性が高まっています。
- 子どもたちは、読書を通じて、読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができるようになります。また、文学作品に加え、自然科学・社会科学関係の書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる探求心や心理を求める態度が培われます。さらに、読書は、人間性を培う上で非常に有益であるとともに、読書と学力の相関関係には強いものがあります。
- 国語の時間に本の紹介をしたり朝読書の時間を取り入れたりすることで、本に対する興味・関心は高まっており、読書の時間は増加しています。読書指導員の努力、朝読書の取り組み、図書室の蔵書数増など、一定の成果が表れてきています。今後も、読書活動を取り巻く情勢の変化や子ども達の読書活動の状況を踏まえ、読書活動に積極的に取り組むとともに、読みたい本がすぐ手に取れるとともに、多角的な視点につながるよう、様々なジャンルの本に触れられる環境のさらなる整備、家庭と連携した読書の推進に取り組む必要があります。

## 【社会教育】

- 総合図書館は町民の学びを支える地域の情報拠点であり、資料の充実と利用環境の整備が必要です。学習活動や情報発信の機能を高め、地域、学校、企業など多様な主体との連携や、町民が身につけた知識や経験を生かせるようボランティア活動の充実など、地域に開かれた魅力ある図書館となることが重要です。
- 子どもの読書活動については、幼児期からの読書習慣の定着が課題であり、読書環境の整備と読書機会の充実を図る必要があります。ブックスタートや、公民館が学校での読み聞かせ活動と連携しながら、図書館が中心となり読み聞かせボランティアの育成を促進する取組が必要です。

## 寒川町総合計画 2040 における図書館運営事業の目標

（基本目標1：まちづくりの原動力となるひとづくり／政策2：生涯を通じた学びと自己実現の促進／施策3：社会教育の振興）

施策目標：町民が地域で学び、その成果がひとづくり、つながりづくり、まちづくりに生かされている

目標指標：人口1人あたりの貸出点数（点）[町内在住、在勤・在学者貸出点数÷人口]

基準年（R1）	R3	R4	R5	R6
4.0点	4.4点	4.6点	4.8点	5.0点

## 【総合図書館運営事業】

事務事業目標：①図書館が学びを支える情報拠点となり、町民の幸せと誇りを創出している。

②幼児期から読書習慣が定着している

取組概要:①図書館の資料の充実を図ります

②幼児期から図書館に来る機会づくりを充実します

目標指標:①図書館利用登録者数(人)

基準年(R1)	R3	R4	R5	R6
21,647人	22,000人	22,400人	22,800人	23,000人

②子ども対象利用促進事業の参加者数(人)

基準年(R1)	R3	R4	R5	R6
2,107人	2,150人	2,200人	2,250人	2,300人

## 子どもの読書活動推進に関わる社会教育委員からの意見

【H30・R元年度社会教育委員図書館部会意見】

図書館のイベントについて

- ターゲットを明確にすることが大切。乳幼児、小、中、高校生の区分ごとが妥当か。
- わくわく読書マラソンは非常に良い企画で、全年齢を対象にすべき。
- 今回(令和元年度)の図書館まつりはとても良い視点。このイベントの集客が今後の利用にどう結びつくのか注目している。
- 図書館の認知、図書館利用の促進について、現在の取組で足りているか。イベントによる客は単年のものであり、今後の図書館利用に結びつくか未知数である。

【R2年度社会教育委員図書館部会書面会議での委員意見】

子どもの時期から読書の習慣付けを図る取組について

- 図書館に行かなくても図書館事業を自宅で参加できる取組を検討する。(Zoom参加、動画配信)
- 子どもの検診や、医療機関や小学校図書室と連携し図書に関するPRを行う。
- ブックスタート、図書館、公民館、学校のそれぞれの読み聞かせ活動が連携して、相互に参加を促す。
- 町内で活動する各読み聞かせボランティア登録を町で統一し、他の活動への希望を把握する。

読書活動や図書サービスについての自由意見

- 町ぐるみで『人生の10冊』のように、自分にとってこれだと思う10冊の本を選ぶキャンペーンを行い、町民ひとりひとりが本を意識する活動ができるといい。多く挙げられた本とその理由なども紹介できるとおもしろいです。
- 今、多くの大学生がオンライン授業のため、町内の自宅で授業を受けています。レポート課題等が多く、しかし大学の図書館が利用できないという今までなかった状況に困惑していると聞いています。総合図書館には多くの専門書があることを知ってもらい、もっと多くの大学生に利用してもらえるとよいと思います。

【参考意見:R3年度教育委員会調査研究会での意見】

- 子どもたちに「読みたい本」「他の人にも読んでほしい本」を提案してもらい、その本を図書館で購入してはどうか。自分が提案した本が実際に図書館にあれば、図書館に足を運ぶようになるし、愛着も湧くのではないかと。

## 令和3年度の総合図書館の子どもの読書活動に関連する事業計画

- 総合図書館 2021 年度事業計画(4/27 第1回社会教育委員会議 資料No.10 参照)
- 令和3年夏休み企画 児童読書推進事業実施要領(別紙)

## ジュニア司書の育成について

### ジュニア司書育成の目的

子どもが図書館の仕事に触れながら、司書の仕事や図書館の仕組みを理解し、図書館の効率的利用方法や本を人に紹介するスキルを身につけることによって、人と本を結びつける読書推進のリーダー役として地域で活躍できるよう育成する。

### これまでの経過

【平成 28 年度】

- 寒川総合図書館で「ジュニア司書講座」を実施。神奈川県内で初。  
講座構成：講座(7~8月/全4回)、実習(9~10月/全2回)、認定式(11月3日)  
対象者：小学校高学年から中学生までの児童生徒 10人(原則として講座全4回に参加できる人)  
参加者：小学5~6年生 10人  
講師：図書館職員  
講座内容：  
第1回「図書館はどんなところ？司書はどんな仕事？」  
オリエンテーション、館内見学、図書館の司書の仕事紹介、図書館システム紹介、配架体験、NDC(日本十進分類法)、図書館間の協力体制を学ぶ、選書  
第2回「レファレンスってなに？」  
レファレンスサービスについて学び、参考図書も使いながら、例題から調べ物をして発表する。  
蔵書検索の効率的な方法を学ぶ。  
第3回「おすすめ本を紹介しよう~展示コーナーづくり」  
展示コーナーづくりのため、展示する資料を書架から引き抜き、図書館システムを使って状態変更を行う。紹介ポップの作成、飾りつけを行い、展示を完成させる。  
第4回「①やってみよう!読み聞かせ」「②図書館専用の装備をしよう」  
①読み聞かせにふさわしい選書、方法を学ぶ。おはなし会を見学し、実際のおはなし会に向けて練習をする。②文庫本を持参し、NDCの分類をした後、ブックカーがけを体験する。

実習内容：

- 第1回「土曜日おはなし会に読み手として参加する」  
都合のよい土曜日に1~2人ずつ読み手として参加する。
- 第2回「体験してみよう!ビブリオバトル」  
グループに分かれてのビブリオバトル体験会  
認定後の活動：認定されたジュニア司書に参加の有無を確認し、希望者に図書館事業に参加する。
  - ・土曜日おはなし会に読み手として参加
  - ・スペシャルおはなし会等の参加者向け記念品の作成補助
  - ・展示コーナーの作成
  - ・新春図書館福袋イベントへの参加

## 訂正版

### 【平成29年度】

- H28 ジュニア司書認定者(1期生)による活動(11~1月/5回) 参加者:10人  
活動内容:①おはなし会に参加  
②新春図書館福袋に詰める本のテーマおよび本の選定、新聞紙バッグ作り  
③カウンター業務体験

### 【平成30年度】

- 「ジュニア司書講座」を実施(7~9月/全8回…必修4回、選択4回のうち2回選択の6回受講で  
ジュニア司書認定(2期生))

対象者:小学校高学年から中学生までの児童生徒 10人

参加者:小学5・6年生 6人(2期生) 中学生 10人(1期生)

講師:寒川総合図書館スタッフ

- 活動内容:①としょかん体験ツアーの案内補助  
②選書体験・ポップ作り  
③ミニビブリオバトル  
④としょかんまつりの各コーナー補助  
⑤クリスマス展示・飾り付け  
⑥新春図書館福袋の本のテーマおよび本の選定、新聞紙バッグ作り(1・2期生合同活動)  
⑦勉強会「レファレンス講座」(1・2期生合同活動)  
⑧ジュニア司書会議(1・2期生合同活動)

### 【令和元年度】

- H30 ジュニア司書認定者による活動(6~2月/11回)  
参加者:13人(1期生7人、2期生6人)  
活動内容:①活動説明会  
②YA展示のジュニア司書おすすめの選書とポップ作成  
③としょかん体験ツアーの案内補助役  
④ブックキャラバンでの選書体験  
⑤としょかんまつりの各コーナー補助  
⑥新春図書館福袋用の新聞バッグ作り、本の選定  
⑦YA展示向けポップ作り  
⑧ジュニア司書会議  
⑨書架整理ボランティア(毎週土日)

### 【令和2年度】

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、育成講座および認定者活動の中止

### 【令和3年度】

- 「ジュニア司書養成講座」  
日時:7月23日(金)、29日(木)、8月4日(水)、6日(金)10:00~11:00(全4回)  
対象者:小学5年生~中学2年生 4人(町内在住か在学の人優先で、全回参加できる人)  
講師:寒川総合図書館スタッフ  
内容:図書館と図書館司書について学ぶ。修了後は図書館のイベントに参加できます。

## ジュニア司書育成の課題

- H28 年度講座は、ジュニア司書の認定のため、欠席者に補講を行ったが、毎回1名は体調不良などで欠席があり、補講の日程調整や内容設定が主催者側の負担となった。
- 講座の対象者を小学校高学年から中学生としているが、中学生の講座参加希望者がいない。
- 認定後は継続してジュニア司書の活躍の場を作っていく必要があるが、これまでは総合図書館内の活動に留まっている。学校や地域と連携して子どもの読書活動推進をすることが望ましい。
- ジュニア司書認定後の活動について、意欲的に参加する子どもが年度により差があり、参加が定着しなかった。
- ジュニア司書からの要望で、毎週土日に1時間以内の書架整理ボランティア活動を取り入れた。説明会での手ごたえは良好で、最初の2ヶ月は数名参加があったが、以降参加者がいなくなった。スタッフが何度か声掛けをしたが、予定にない活動は難しいようだった。
- ◇ ジュニア司書でYA展示の本の選定と紹介ポップづくりを実施。常に貸出状態となる本が多く、効果が大きい。
- ◇ ジュニア司書にブックキャラバンでの選書に参加してもらい、購入資料の絞り込みにも携わってもらった。選書した本は貸出状況も良い。